

第 59 回北海道小学校長会
教育研究小樽大会 開会式
研究大会大会長 挨拶



全道各地よりお集まりの皆さん。おはようございます。

はじめに、このたび北海道各地を襲った台風の被害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧を願っております。

また、この場にいらっしゃる皆様の中にも、J R 北海道の運休や道路の通行止めなど大変な中、駆けつけていただいた方が多数いらっしゃいます。本当にお疲れ様です。そしてありがとうございます。

さて、「歴史と文化の街小樽より 未来にはばたく子どもたちの 夢に向かって新たな一歩を」をキャッチフレーズに、ここ小樽市において、全道各地より約 630 名の参加を得て、第 59 回北海道小学校長会教育研究小樽大会が盛大に開催されますことは、誠に意義深く大きな喜びであります。

59 年目を迎える本会の教育研究大会の中で、3 回目となる小樽大会を 25 年ぶりに開催するにあたり、急ピッチで進む、学校統廃合により、21 名という小規模な会員数の中で、小樽市小学校長会の皆様は、様々な困難を抱えて来たことと思います。しかし、「小規模だからこそ、発想を変え、これまでにこだわらない大会運営を創造する先駆けになれる」ととらえ、ピンチをチャンスに変えてこられました。これまでご努力くださいました関係各位の皆様にあらためてお礼申し上げます。

続きまして、本教育研究大会の開催にあたり、公務ご多用にもかかわらず、北海道教育庁後志教育局長 武田信吾（たけだ しんご）様、小樽市長 森井 秀明（もりい ひであき）様、小樽市教育委員会教育長 林 秀樹（はやし ひでき）様、全国連合小学校長会会長 大橋 明（おおはし あきら）様をはじめ多くのご来賓の皆様にご臨席を賜りましたことは、本会にとりまして大変光栄なことであり、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。

また、武田後志教育局長 様、大橋全連小会長 様には、当面する教育課題について、全道・全国的な視点からご講話をいただくとともに、明日は、精神科医で立教大学教授の 香山リカ（かやま りか）様から、「子どもの心のバランスとケア」と題して、ご講演をお聞きできることは、研鑽を高める素晴らしい機会であり、深く感謝申し上げます。

かつて東日本大震災において、被災した岩手県は、全国に向け「一緒に悲しむことよりも、あなたの仕事を一生懸命やってほしい。それが岩手を元気にする力になると思うから」とメッセージを出しました。私たちも、この小樽大会で一生懸命研修することが、全道の台風被害に遭われた方々を元気にする力になると考えてがんばりましょう。

本日午後の13の分科会においては、参画型の分科会として、学校改善に資する校長のリーダーシップの在り方について、熱い研究協議がなされ、全道すべての学校にくまなく還流されていくことを期待しています。

結びに、今大会の開催にあたり、長きにわたりきめ細かく周到な準備を積み上げてこられた寺澤実行委員長を中心とした小樽市小学校長会の皆様と、全面的な協力体制をとった小樽市中学校長会、後志小中学校長会の皆様のご尽力に心から敬意と感謝を申しあげるとともに、本大会の開催に当たりご指導ご助言をいただきました北海道教育庁後志教育局をはじめ多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

本大会において、「未来を見据え、チーム北海道として進む道小」としての結束力を高め、学校改善と本道教育の質の向上のために、ここ「歴史と文化の街」小樽の地で大いに研修に努めることを誓い合い、開会の挨拶といたします。今日から二日間、どうぞよろしくお願いいたします。